

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	テキスタイル学科 昼間部(2年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	染色実験	春日 泰浩	2単位 70時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
様々な染織加工方法を実習を通して学び、特殊加工に必要な工程と必要材料を学ぶ。各加工の特徴と生じる不具合を学び、企業で働いた際に提案できる人材を育てる。			
【講義概要】			
①特殊加工を施したサンプルを毎回制作、サンプル制作期間終了後ファイリングを行う。②ファイリングした加工方法の中から各自目指すテキスタイルをデザイン。3m長さ程度のオリジナルテキスタイルを制作。 ③制作した生地と使用場面・コンセプトをまとめたデータを制作。最終日プレゼンテーションを行う。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ガイダンス		
2	デザイン画制作1		
3	デザイン画制作2		
4	デザイン画制作3		
5	綿・麻の加工1顔料プリント(白生地用・色生地用)生地持込みOK		
6	綿・麻の加工2発泡プリント パールプリント		
7	綿・麻の加工3箔プリント・フロッキープリント		
8	綿・麻の加工4抜染プリント(4-1)抜染生地を染める 白色抜染・着色抜染		
9	綿・麻の加工5抜染プリント(4-2)プリント→蒸し→洗い		
10	綿・麻の加工6防染プリント 白色防染・着色防染		
11	綿・ポリエステル加工1オパール加工 無色オパール、着色オパール		
12	ポリエステルの加工1 熱可塑性、転写プリント		
13	しぼり染		
14	板締め		
15			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点 提出作品(提案)10点から成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習を基本としてプリント生地制作に必要な実体験を学ぶ。 実用的な生地の使われ方や身の回りにある製品から学ぶ。 講師はプリント工場勤務経験があり、実務経験に基づいてテキスタイルデザイナー養成に向けた授業を展開することが出来る。			

都作成参考例【国及び都が定める添付資料②】

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	テキスタイル学科 昼間部(2年制)	2022年度	1年・前期 後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	友禅実習 I	安藤タヅ子	5単位 160時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
友禅の基本技術を学び友禅染の工程と図案制作を学ぶ			
【講義概要】			
授業時に配布するテキストを元に友禅の基本技術を解説、私用する糊や色を数値だけでなく体感で確認する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	サンプル制作 学校で用意した柄を生地に写し友禅の基本工程を実践して学ぶ。		
～	この課題を通して自分の手を使って基礎工程を学ぶことで、今後作品制作をする上でのスケジュール管理と		
12	完成までの工程をイメージすることができる。		
13	帯制作 オリジナルの図案を制作、5mの長さの友禅染め帯を作る。		
～	図案を徹底的に考え視覚化する、課題1に比べ長い生地制作を体験することで出来る事と出来ない事を体験し		
25	今後の作品制作に反映させる。		
26	古典模作 加賀友禅の作品の中から1点を選び模写を行う、古典の柄から技法や色の選択を学ぶ。		
～	古典の柄から色と技法を学ぶだけでなく想像を働かせ、お手本画面にない空間の想像と当時の色を		
32	思い描きながら作品制作をする。		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点 提出作品(提案)10点から成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習を基本として友禅生地制作に必要な実体験を学ぶ。 道具や材料の使い方を実践をとおして学ぶ。講師は友禅作家として多数の受賞歴があり、 講師経験も長いキャリアを持ち作家としての考えや作品を作る上で大切なことを教えながら授業を行うことができる。			

都作成参考例【国及び都が定める添付資料②】

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	テキスタイル学科 昼間部(2年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	織実習 I	馬場美和子	5単位 160時間

【授業の到達目標及びテーマ】

成: 基本技術を学び1枚の織生地が出来上がるまでの工程を学び用途を考える。企業に就職した際、織工場へ発注依頼ができるような人材を育てる。

【講義概要】

①織物三原組織(平織、斜文織、朱子織)を学ぶ ②幾何学と具象をペーパーデザインし、その中から1点選び綴れ織りで表現する。③チェックのデザイン画を制作、デザイン画を元に糸計算、糸染、糸セットを行いマフラーを製織する。

回	授業計画及び学習の内容
1	糸について 整経 糸染め準備
2	糸染め(シリヤス染料)
3	機がけ
4	製織 平織・綾織・トルコ朱子織
5	製織 ななこ織
6	製織 ワッフル
7	製織 吉野織
8	製織 ヘリンボーン
9	製織 オーバーショット
10	整経 機がけ
11	機がけ 半そうこう
12	製織
13	製織
14	製織
15	以下、厚地織物制作とマフラー制作を行う。

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点、提出作品(提案)10点から成績評価を行う。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

織の基本工程や糸計算を解説。学生が各自糸セットと織り作業を行い織生地への理解を深めるようにする。

道具や材料の使い方を実践をとおして学ぶ。講師は織作家として活躍しており、展示販売も頻繁に行っている。

講師経験も長いキャリアを持ち販売する際の方法や自分の作品制作を通して学生に伝えながら授業を行う。

都作成参考例【国及び都が定める添付資料②】

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	テキスタイル学科 昼間部(2年制)	2022年度	1年・前期 後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	アパレル企画 I	東 重美	5単位 165時間

【授業の到達目標及びテーマ】

企画の基本となるプランニング方法や資料請求のまとめ方を学ぶ。簡潔に事柄を伝えることを習得して、デザイナーとしてひつよなスキルを身に付ける。

【講義概要】

①企画書作成 テーマを選択して各自企画をまとめ企画書を作る。②マーケティングリサーチ リサーチした内容をまとめリサーチマップをつくる。③企画マップ作成 生地や写真を使い資料をまとめ企画マップをつくる。企画書に適した言葉使いは手法は日々変化する、雑誌やCMのキャッチコピーなどファッションだけでなくシヤイの情勢などデザイナーに必要な事柄を意識しながらアンテナを広げる術を伝える

回	授業計画及び学習の内容
1	企画の立て方、企画書の作り方
2	市場調査
3	市場調査
4	企画書作成
5	企画書作成
6	ブラッシュアップ
7	企画書完成
8	発表
9	上記の作業を繰り返し行い、企画の立て方と考え方を身に付ける
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点
提出作品(提案)10点から成績評価を行う。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

配布したテキストを元に説明。繰り返し資料請求をまとめる作業を行い、最終作り上げた内容を授業内でプレゼンテーションを行う。

国内で行われている生地の展示会に訪問して実際のテキスタイル業務の内容を学ぶ

実務経験が長く現在もデザイン現場で働いており、今の情報や仕事を伝えることができる。またサンプルも所持しており学生が制作したい衣服の要望に応えることができる。

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	テキスタイル学科 昼間部(2年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	アクセサリー実習	磯邊 美香	2単位 85時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>アクセサリーに関する基礎知識と実技を通して、立体感覚を養う。生地を使ったアクセサリーを制作して、他のテキスタイル作品とトータルデザイン感覚を養う。制作した作品は学校ブランド【志 (kokorozashi)】で販売を行う。</p>			
【講義概要】			
<p>授業時のスライド掲載をもとに解説。各課題を実際にこなす中で実際の制作方法を通して生地を使った応用基礎を学ぶ。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
	<ol style="list-style-type: none"> 1 本授業の目標、アクセサリー概論、立体を意識する(基礎実習) 2 色彩論概論、色彩WS(基礎実習、色彩イメージマップ) 3 金具ワークの基礎実習、くるみボタンアクセサリー制作 4 平面を立体に起こすことを基礎的に学ぶ 5 平面を立体に起こすことを応用的に学ぶ1 6 平面を立体に起こすことを応用的に学ぶ2(ロゼッタ制作) 7 平面を立体に起こすことを応用的に学ぶ3 8 平面を立体に起こすことを応用的に学ぶ4 9 立体を立体に起こすことを応用的に学ぶ1 10 立体を立体に起こすことを応用的に学ぶ2 11 素材の調和を立体的に学ぶ1 12 素材の調和を立体的に学ぶ2 13 1アイデアをたくさん出し説明する,2簡単なスケッチをたくさん書く 3対話する 14 ・マーケティング概論、ブランド概論、パッケージデザイン 15 		
【成績評価方法】			
<p>講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)20点、提出作品(作品点数)20点、提出作品(まとめ)30点,提出作品(提案)30点から成績評価を行う。</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>講義と実習を交え授業を行い基礎力から応力を学ぶことができる。</p>			
<p>実務経験があり、現在も代表取締役兼デザイナーとして働いている。企画を物創りの視点と企画側の視点、両方から解説することができる。</p>			

都作成参考例【国及び都が定める添付資料②】

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	テキスタイル学科 昼間部(2年制)	2022年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	プリント実習 I	春日 泰浩	2単位 80時間

【授業の到達目標及びテーマ】

オリジナルで制作したデザイン画を生地にプリント。データ作成から版制作、生地を選定、プリントと仕上げまでを学ぶ。実際の生地にプリントすることで、プリント柄の見え方や製品になった際の不具合や色の選定を学ぶ。企業に就職した際、プリント工場へ発注依頼できるような人材を育てる。

【講義概要】

データ作成、版制作、プリント方法を解説。作業時における注意点を気を付けながら実習。
①30cm×30cmのデザイン画(2色)を四方送りしたプリントを制作。
②30cm×30cmのデザイン画(3色)をハーフステップしたプリントを制作または暖簾制作
各デザイン画とも市場調査と使用場面、コンセプトをまとめたデータを提出。

回	授業計画及び学習の内容
1	ハーフステップを利用したデザイン画をプリント。生地使用用途を決めてデザイン画作成
2	デザイン画制作
3	デザイン画制作
4	デザイン画制作
5	版下用データ制作
6	版制作・製版
7	版制作・製版
8	色実験
9	色実験
10	捺染
11	捺染
12	整理加工
13	使用用途をまとめマッピング
14	使用用途をまとめマッピング
15	プレゼンテーション

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点
提出作品(提案)10点から成績評価を行う。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

最初から最後まで自分の手を使って作業します。自分の手を使い体験することで生きた知識として今後活用することができます。

実務経験があり、プリント業務の進め方と楽しさ伝えるながら授業を行うことができる。

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	テキスタイル学科 昼間部(2年制)	2022年度	2年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	卒業制作	春日泰浩	11単位 355時間

【授業の到達目標及びテーマ】

教員から提案された課題でなく自分でテーマを見つけ、作品制作を行うことで洗練された作品コンセプトを作る。作品制作だけでなくプレゼンテーション、仕器も含めた展示方法を考え発表することで作品制作の行く末や学校外からの評価を体験。卒業してからの活動手本として、この授業を活用する。

【講義概要】

スケジュール概要を説明。各自作品制作。後期半年間の制作に見合う作品を提出。
 プリント・織生地・友禅等デザイン違いで3点以上。
 きもの場合は、完成形を1点以上。
 コンセプトをまとめたデータ等、展示用物品の制作。

回	授業計画及び学習の内容
1	ガイダンス
2	スケジュール表作成
3	デザイン提案
4	デザイン提案
5	デザイン提案
6	実験
7	実験
8	実験
9	本番制作
10	本番制作
11	本番制作
12	展示方法を考える
13	ポップ制作
14	展示
15	プレゼンテーション

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点
 提出作品(提案)10点から成績評価を行う。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

スケジュール概要、展示点数等を初日授業で告知。作品コンセプトを考え、スケジュールを提出。実験、修正を繰り返し本番用テキスタイルを制作。シャツやバッグといった製品提案の場合は制作した生地を裁断縫製して製品化する。授業最終日プレゼンテーションを行い各講師から意見を聞き、作品手直しや展示方法の再検討を行う。制作した作品はギャラリー等で展示
実務経験を活かした授業と実際に体験したことを伝える授業を行うことが出来る。

都作成参考例【国及び都が定める添付資料②】

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際教養学科(2年制)	2022年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	外国語I／II	岡田 謙吾	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
本授業では英語の基本事項に焦点をあてながら、英語に慣れ親しみ、英語学習への動機付けを目指す。			
【講義概要】			
主に英文法と会話表現の中で、比較的やさしく、かつ実用的なテーマを毎回の授業で設定し、授業を行う。受講者の状況、希望により、臨機応変な授業内容を心がけたい。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	基礎的な単語を覚える		
2	動詞の変化について		
3	音読 I		
4	音読 II		
5	ディクテーション I		
6	ディクテーション II		
7	重要表現について I		
8	重要表現について II		
9	会話のロールプレイング I		
10	会話のロールプレイング II		
11	問題演習 I		
12	問題演習 II		
13	問題演習 III		
14	問題演習 IV		
15			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<small>時間の半分はパワーポイント、講師作成のレジュメ、板書などを使い、質疑を交えながら講義形式で進める。受講者はメモをとりながら、適宜質問にも答えてもらう。残りの半分は問題演習や会話のロールプレイング、音読やディクテーションなどを通じて、実践力を養い、理解を能動的に深められるようにする。状況によっては重要表現の暗記や読解問題にも併せて取り組みたい。適宜小テストを実施し、理解の定着も図る。</small>			
証券会社での実務経験をもとに豊富な知識と巧みな話術で楽しい授業ができる教員である。			

都作成参考例【国及び都が定める添付資料②】

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際教養学科(2年制)	2022年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	政治経済 I/II	関谷俊郁	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
日本の政治および経済の基礎を学び、社会人としての必要最低限な政治学・経済学の知識を習得する。			
【講義概要】			
毎週の授業は、出席者が「前週までの授業の内容を基本的に理解している」ことを前提に行われるので、授業中に出てきた政治や経済の用語のうち、よく分からないものがあれば、翌週の授業の前までにテキストを参照し、理解しておくこと。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	経済体制		
2	価格と市場		
3	景気変動		
4	経済成長		
5	経済政策		
6	国民経済と国際経済		
7	民主主義の原理		
8	議会と政府		
9	選挙と政治参加		
10	憲法と人権		
11	中央と地方		
12			
13			
14			
15			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)30点、期末試験70点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
時間の半分はパワーポイント、講師作成のレジュメ、板書などを使い、質疑を交えながら講義形式で進める。毎回テストやレポート課題を出す、しっかりやることで理解の定着を図る。			
防衛省での勤務経験を活かし多角的な視点で論理的に考える政治経済の講義を展開			

都作成参考例【国及び都が定める添付資料②】

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際教養学科(2年制)	2022年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	ビジネスマナーⅠ・Ⅱ	吉川 知子	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 社会での一般的な社会常識を理解し、「良好な人間関係を築くために必要なマナー」の基本を学ぶ。 2. コミュニケーションの特徴を理解し、心を伝えるための表現力を身につける。 3. 「知っている・わかっている」から「普通にできる」ようになる。			
【講義概要】			
学んだ内容をその場で実践しながら理解していくので、授業は休まず出席し、ロールプレイングでは前向きに取り組むこと。スーツを着用の指示があった場合はスーツで受講すること。提出課題は必ず提出すること。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	日本のコミュニケーションと海外のコミュニケーションの違い		
2	挨拶のポイントと場面にあった挨拶言葉		
3	第一印象の重要性、相手に与える自分の印象		
4	視覚に入る情報～身だしなみ／面接試験でのスーツの着方／基本的動作(姿勢・お辞儀・歩き方)／表情		
5	聴覚に入る情報～敬語の基本／感じの良い話し方／発音・活舌トレーニング		
6	指示の受け方・報告の仕方		
7	電話応対／受け方・かけ方		
8	名刺交換／席次／エレベーター乗降り／ドアの開閉		
9	履歴書のポイントと注意点、書き方		
10	ビジネスメールの種類とポイント、書き方		
11	指示の受け方～メモをとる、復唱確認の話し方		
12	報告の仕方～話し方		
13			
14			
15			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
社会人になるための基本を全て教えます。これが全てできれば社会人として恥ずかしくないというレベルまで持っていきます。			
企業での人事およびビジネスマナーを長年担当してきたビジネスマナーのプロ			

都作成参考例【国及び都が定める添付資料②】

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際教養学科(2年制)	2022年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	異文化理解 I・II	関谷 俊郁	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
社会で、また国際的に様々な文化的背景を持った人々とのコミュニケーションの仕方について学ぶ。 また、企業などの組織では、企業ごとの企業文化や企業風土があるので、目には見えないコミュニケーションの仕方についても学んでいく。			
【講義概要】			
様々な文化におけるコミュニケーションの仕方を学び、異文化間でよくおこる誤解などをケーススタディを通して学んでいく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	世界における様々な文化について理解する		
2	ビジネスの現場において文化圏の違いが引き起こす誤解を理解する(ケース1)		
3	ビジネスの現場において文化圏の違いが引き起こす誤解を理解する(ケース2)		
4	ビジネスの現場において文化圏の違いが引き起こす誤解を理解する(ケース3)		
5	ビジネスの現場において文化圏の違いが引き起こす誤解を理解する(ケース4)		
6	ポジティブフィードバックの文化		
7	ネガティブフィードバックの文化		
8	ハイコンテクストなコミュニケーションをする文化圏		
9	ローコンテクストなコミュニケーションをする文化圏		
10	コミュニケーション演習1		
11	コミュニケーション演習2		
12	コミュニケーション演習3		
13	コミュニケーション演習4		
14	フィードバック1		
15	フィードバック2		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
学生同士の積極的な参加とグループワークを特徴としており、アクティブラーニングを意識した授業を展開する。			
防衛省での勤務経験を活かし多角的な視点で論理的に考える政治経済の講義を展開			

都作成参考例【国及び都が定める添付資料②】

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際教養学科(2年制)	2022年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	数学I/II	岡田 謙吾	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
数学 I 数学Aを確実にマスターする			
【講義概要】			
『数Aの場合の数と確率のにながてな人へ』(※印刷で対応) 『数学 I・A標準問題精講 改訂版』 『数学の公式・定理・決まりごとがまとめてわかる事典』これらのテキストを使って数学を理解する			
回	授業計画及び学習の内容		
1	数と式1		
2	数と式2		
3	2次関数1		
4	2次関数2		
5	図形と計量1		
6	図形と計量2		
7	場合の数と確率1		
8	場合の数と確率2		
9	図形の性質1		
10	図形の性質2		
11	整数の性質1		
12	整数の性質2		
13			
14			
15			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
数学的思考や数の魅力、数式の魅力について展開。とにかく数学嫌いにならないようやります。			
商品取引やデリバティブ取引など市場経験を活かし、とにかく数字と数学の重要性を熟知しているプロ			

都作成参考例【国及び都が定める添付資料②】

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際教養学科(2年制)	2022年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	国際経営I/II	関谷 俊郁	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
日本企業、および世界の企業のケーススタディを通して経営における課題と、その対処および解決策について理解する。また領域科学としての経営学という学問を理解する。更に最近問題となっているダーバーシティに関してエリン・メイヤーの『異文化理解力』を使って学生自身の異文化体験を通じてコミュニケーションのむずかしさについて考えていく。			
【講義概要】			
企業経営における様々な問題点を取り上げながら組織についての考察をする。 また組織の円滑な運営におけるコミュニケーションの重要性について理解を深める。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	経営学の必要性について		
2	正しい現実の把握と意志決定		
3	企業とは何か		
4	大企業の誕生		
5	雇用の安定と社会的利益		
6	イノベーション時代のモチベーション		
7	楽しく働くために		
8	優れたリーダーの条件		
9	1+1を2以上にする組織		
10	経営戦略策定のための基本的な理論枠組とツール		
11	古典的戦略と経営戦略		
12	IT革命とイノベーションの時代		
13	教養としての経営学		
14	ナレッジ・マネジメント		
15	人間を中心に据える経営学		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
領域科学としての経営学という学問を理解する。そのうえで新聞も利用しながら時事的な企業のトピックを扱いながら現代社会における主要なプレイヤーである企業や組織について関心を持たせ理解を深める。			
防衛省での勤務経験を活かし多角的な視点で論理的に考える政治経済の講義を展開			

都作成参考例【国及び都が定める添付資料②】

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
工業専門課程	国際情報学科(2年制)	2022年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	外国語I／II	岡田 謙吾	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
本授業では英語の基本事項に焦点をあてながら、英語に慣れ親しみ、英語学習への動機付けを目指す。			
【講義概要】			
主に英文法と会話表現の中で、比較的やさしく、かつ実用的なテーマを毎回の授業で設定し、授業を行う。受講者の状況、希望により、臨機応変な授業内容を心がけたい。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	基礎的な単語を覚える		
2	動詞の変化について		
3	音読 I		
4	音読 II		
5	ディクテーション I		
6	ディクテーション II		
7	重要表現について I		
8	重要表現について II		
9	会話のロールプレイング I		
10	会話のロールプレイング II		
11	問題演習 I		
12	問題演習 II		
13	問題演習 III		
14	問題演習 IV		
15			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<small>時間の半分はパワーポイント、講師作成のレジュメ、板書などを使い、質疑を交えながら講義形式で進める。受講者はメモをとりながら、適宜質問にも答えてもらう。残りの半分は問題演習や会話のロールプレイング、音読やディクテーションなどを通じて、実践力を養い、理解を能動的に深められるようにする。状況によっては重要表現の暗記や読解問題にも併せて取り組む。適宜小テストを実施し、理解の定着も図る。</small>			
商品取引やデリバティブ取引など市場経験を活かし、あらゆる分野に精通している国際派の教員である。			

都作成参考例【国及び都が定める添付資料②】

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
工業専門課程	国際情報学科(2年制)	2022年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	国際ビジネスI/II	吉川 知子	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
社会人としての基礎から国際的なビジネスシーンにおける基礎的なスキルまで身につける			
【講義概要】			
日本社会での一般的な社会常識を理解し、「良好な人間関係を築くために必要なマナー」の基本を学ぶ。 母国とは違う日本のコミュニケーションの特徴を理解し、心を伝えるための表現力を身につける。 「知っている・わかっている」から「普通にできる」ようになる。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	日本のコミュニケーションと海外のコミュニケーションの違い		
2	挨拶のポイントと場面にあった挨拶言葉		
3	第一印象の重要性、相手に与える自分の印象		
4	視覚に入る情報～身だしなみ／面接試験でのスーツの着方／基本的動作(姿勢・お辞儀・歩き方)／表情		
5	聴覚に入る情報～敬語の基本／感じの良い話し方／発音・活舌トレーニング		
6	指示の受け方・報告の仕方		
7	電話応対／受け方・かけ方		
8	名刺交換／席次／エレベーター乗降り／ドアの開閉		
9	履歴書のポイントと注意点、書き方		
10	ビジネスメールの種類とポイント、書き方		
11	指示の受け方～メモをとる、復唱確認の話し方		
12	報告の仕方～話し方		
13	日本のコミュニケーションと海外のコミュニケーションの違い(演習1)		
14	日本のコミュニケーションと海外のコミュニケーションの違い(演習2)		
15	日本のコミュニケーションと海外のコミュニケーションの違い(演習3)		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)30点、期末試験70点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義と実践、演習を繰り返すことで社会人として恥ずかしくない態度が身につくように指導する。			
様々な企業でのビジネスマナー等研修のプロ			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
工業専門課程	国際情報学科(2年制)	2022年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	数学I・II	中山 広樹	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
数学ⅡBを理解し、マスターすることを目標とする。			
【講義概要】			
数学ⅡBを中心に進める。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	式と証明 1		
2	式と証明 2		
3	三角関数 1		
4	三角関数 2		
5	指数関数・対数関数 1		
6	指数関数・対数関数 2		
7	微分法・積分法 1		
8	微分法・積分法 2		
9	ベクトル 1		
10	ベクトル 2		
11	数列 1		
12	数列 2		
13			
14			
15			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式で実施する。			
建設会社での経験を活かし、実務的観点から理論を体系的に説明する、わかりやすい講義のできる教員です。			

都作成参考例【国及び都が定める添付資料②】

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
工業専門課程	国際情報学科(2年制)	2022年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	情報処理	中山 広樹	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
情報処理全般について理解し、情報処理技術者試験合格を目指す。			
【講義概要】			
情報処理の基礎から応用まで展開。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	データベース方式、設計、操作、応用、トランザクション処理		
2	ネットワーク方式、データ通信と制御		
3	通信プロトコル、ネットワーク管理、応用		
4	情報セキュリティ		
5	情報セキュリティ管理		
6	セキュリティ技術評価		
7	情報セキュリティ対策		
8	セキュリティ実装技術		
9	システム開発技術1		
10	システム開発技術2		
11	ソフトウェア開発管理技術1		
12	ソフトウェア開発管理技術2		
13	サービスマネジメント1		
14	サービスマネジメント2		
15	システム監査		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式がメインだが、試験についても随時紹介して対策をしていく。			
建設会社での勤務経験から仕事での実践的なポイントを指導します。			

都作成参考例【国及び都が定める添付資料②】

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際コミュニケーション学科(2年制)	2022年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	関 咲文	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
初めて中国語を学ぶ人を対象に、正確な発音の仕方に慣れていきながら、日常生活に必要な最も基本的な単語、文法、表現を学習する。一年を通して基礎的な「読む・聴く・話す・書く」を総合的に楽しく学び、中国語のコミュニケーション能力を身につけることを目指す。			
【講義概要】			
前期では主にピンインの発音をたくさん練習・復習する。中国語の漢字と簡体字に慣れるため、読み書き練習を行う。後期では聴くと話すを中心にし、総合的なバランスを図りながら実践していく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	自己紹介		
2	挨拶		
3	発音指導1		
4	発音指導2		
5	発音指導3		
6	発音指導4		
7	文法1		
8	文法2		
9	文法3		
10	文法4		
11	基本表現1		
12	基本表現2		
13	基本表現3		
14	基本表現4		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式がメインだが、試験についても随時紹介して対策をしていく。			
教材開発や動画編集の業界で活躍しているプロフェッショナル。			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際コミュニケーション学科(2年制)	2022年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	資格検定対策Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	関 咲文	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
中国語の授業で学んだ基礎知識を確認しながら定着させていき、HSK3級に相当するレベルを目指す。			
【講義概要】			
HSK公式過去問集を使って、発音や様々な場面における短文の意味と応用に慣れるように繰り返し練習する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	過去問演習1		
2	過去問演習2		
3	過去問演習3		
4	過去問演習4		
5	過去問演習5		
6	過去問演習6		
7	過去問演習7		
8	過去問演習8		
9	過去問演習9		
10	過去問演習10		
11	過去問演習11		
12	過去問演習12		
13	過去問演習13		
14	過去問演習14		
15	過去問演習15		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
試験対策の一環として、解説した上で、できるだけ問題演習を多く行う。			
教材開発や動画編集の業界で活躍しているプロフェッショナル。			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際コミュニケーション学科(2年制)	2022年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	関 咲文	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>モバイルアプリダウンロード数が世界で一位を誇る中国発のTikTokなどを使い、楽しみながら動画マーケティング分野に触れ、非言語的コミュニケーションの運用に関心を持ち、オリジナル動画の制作・発信ができることを目指す。</p>			
【講義概要】			
<p>ショートムービーの撮影・編集・特殊効果機能などの制作方法の習得、動画制作などの実践。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ショートムービーの撮影について1		
2	ショートムービーの撮影について2		
3	ショートムービーの撮影について3		
4	動画編集の方法1		
5	動画編集の方法2		
6	動画編集の方法3		
7	動画編集の方法4		
8	動画編集の方法5		
9	特殊効果機能の付け方1		
10	特殊効果機能の付け方2		
11	特殊効果機能の付け方3		
12	特殊効果機能の付け方4		
13	特殊効果機能の付け方5		
14	特殊効果機能の付け方6		
15			
【成績評価方法】			
<p>講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>iPadやスマートフォンを使って解説する。ショートムービーなどを簡単に作る方法を紹介していく。</p>			
<p>教材開発や動画編集の業界で活躍しているプロフェッショナル。</p>			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際コミュニケーション学科(2年制)	2022年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	ビジネスマナー	吉川 知子	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>1. 社会での一般的な社会常識を理解し、「良好な人間関係を築くために必要なマナー」の基本を学ぶ。 2. コミュニケーションの特徴を理解し、心を伝えるための表現力を身につける。 3. 「知っている・わかっている」から「普通にできる」ようになる。</p>			
【講義概要】			
<p>学んだ内容をその場で実践しながら理解していくので、授業は休まず出席し、ロールプレイングでは前向きに取り組むこと。スーツを着用の指示があった場合はスーツで受講すること。提出課題は必ず提出すること。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	日本のコミュニケーションと海外のコミュニケーションの違い		
2	挨拶のポイントと場面にあった挨拶言葉		
3	第一印象の重要性、相手に与える自分の印象		
4	視覚に入る情報～身だしなみ／面接試験でのスーツの着方／基本的動作(姿勢・お辞儀・歩き方)／表情		
5	聴覚に入る情報～敬語の基本／感じの良い話し方／発音・活舌トレーニング		
6	指示の受け方・報告の仕方		
7	電話応対／受け方・かけ方		
8	名刺交換／席次／エレベーター乗降り／ドアの開閉		
9	履歴書のポイントと注意点、書き方		
10	ビジネスメールの種類とポイント、書き方		
11	指示の受け方～メモをとる、復唱確認の話し方		
12	報告の仕方～話し方		
13			
14			
15			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>社会人になるための基本を全て教えます。これが全てできれば社会人として恥ずかしくないというレベルまで持っていきます。</p>			
<p>企業での人事およびビジネスマナーを長年担当してきたビジネスマナーのプロ</p>			